



富山県高岡児童相談所新庁舎竣工



児童相談所の役割

児童相談所とは、児童福祉法第12条に基づいて、都道府県や政令指定都市等が設置し、18歳未満の子どもの心やからだのこと、家庭や学校での問題などについて、子ども本人や家族・学校の先生・地域の方々などからの相談を受け付け、子どもが明るく健やかに成長していけるようお手伝いをする相談機関です。富山県高岡児童相談所は令和4年4月1日に庁舎が新築された。(高岡市赤祖父172番1)

たかおか 更生保護だより



発行 富山県更生保護協会
高岡市役所社会福祉課内
〒933-8501 富山県高岡市広小路7-50
☎(0766) 20-1367 Fax 20-1371
高岡市更生保護サポートセンター
高岡市役所東別館2階
☎(0766) 53-5101 Fax 53-5102
E-mail:tksc@takaoka-hogosikai.org

生きづらさに寄り添う



富山県 就労支援事業者機構 就労支援員 向山 友子

高岡市保護司会の皆さまには、日頃より犯罪防止および就労支援活動に、ご尽力を賜っておりますこと心より御礼を申し上げます。

皆さまもご存じのとおり、厚生労働省と法務省が行う刑務所出所者等就労支援事業は、平成19年度から開始されております。

事業開始以降の刑法犯認知件数は、減少傾向をたどり、富山県(令和4年)においては、前年度比15%減の3929件となっております。

しかし、全国の刑法犯認知件数は、60万件強(令和4年)と前年度比5.9%の増加に転じ、治安に関するアンケートにおいても、治安が悪化したとの回答が増えております。

そして、問題となっているのが刑法犯検挙者に占める再犯者率と無職者率なのです。

富山県内(令和3年)においても、再犯者率は43.5%、無職者率も41.6%と高止まりの現状にあります。

また、就労支援においても、協力雇用主のもとで就労しても、約半数が半年で離職することや、就労中にトラブルがあったと答える雇用主が半数以上

を占めるなど、雇用の定着や離職後の就労支援に対する仕組みが大きな課題となっております。

国の再犯防止推進計画も、本年4月から第二次計画となり、「寄り添い型支援」が示されております。

今後は、保護司の皆さんや協力雇用主の方々をはじめ、多職種連携の強化と、生きづらさを感じている人々へ寄り添うことが、より一層必要となってくるのです。

官民ともに連携強化を図り、就労に関するシームレスな支援の構築に努めていきたと考えております。

今後、就労支援活動が再犯防止に、より貢献できることを願い、皆さま方のご理解と、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

結びに、高岡市保護司会ならびに皆様方の活動が、ますます発展されますことをご期待申し上げます。

再犯防止

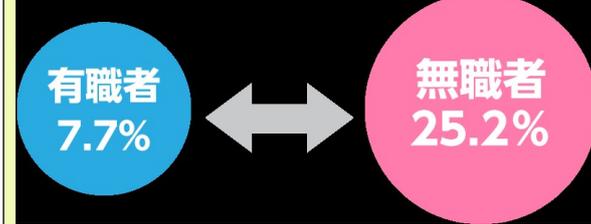
犯罪に 戻らない 戻さない
立ち直りを支える地域の力

無職者の再犯率は有職者の約3倍!

有職者 7.7%



無職者 25.2%



第73回『社会を明るくする運動』富山県更生保護フェア in 高岡開催

第73回『社会を明るくする運動』富山県更生保護フェア in 高岡が7月8日、県内各地から保護司をはじめ更生保護関係者や中学生約700人の参加を得て、富山県高岡文化ホールで開催されました。

この更生保護フェアは、社会を明るくする運動の一環と



して、『社会を明るくする運動』富山県推進委員会と、高岡市推進委員会が主催するものですが、コロナ感染症流行の影響で2年間開催延期となっていた待望の行事でした。

この度、無事開催にこぎつけましたのも更生保護関係諸団体、特に高岡市中学校校長

会、高岡市更生保護女性会、高岡市当局のおかげです、各位、各団体には大変お世話になりました。この紙面をお借りして、改めてお礼申しあげます。

最初にアトラクションとして高岡市立高陵中学校吹奏楽部が「アルセナール」「リバーダンス」の2曲を演奏しての華やかな雰囲気です。

幕を開け、続く開会式では、富山保護観察所中澤秀高所長の挨拶があり、その後、富山県推進委員長新田八朗県知事の祝辞を県厚生部守田万寿夫次長が代読され、高岡市推進委員長角田悠紀市長から祝辞をいただきました。

テンポよく場面展開し、市保護司会と市内12中学校・義務教育学校で開催している公開ケース研究会の今年の担当校である高陵中学校生徒会が「明るい社会づくり」の実践内容を発表しました。

毎年校内で人権弁論大会を開催していること、高陵小と合同で挨拶運動を行っていること、生徒が声を上げて昨年度に校則の改正に取り組んだことを紹介しました。

次に、富山市の更生保護法人富山養得園島田昌彦施設長の講演いただきました。

養得園では刑務所から釈放されたが、身元の引き受けがなく保護を必要とする男性の対象者を収容して、社会復帰させることを目的として施設が運営されています。

就労に関しては、協力雇用主の方々に面接していただき大変お世話になっており、更生保護女性会の方々による豊富なメニューの夕食支援が、園生の心の支えになっているという話があり

ました。

また、自治会の清掃作業を一緒に行ったり、独居老人宅の除雪を行った



りして地域社会と交流するなど、犯罪から立ち直り、社会復帰を援助している施設の活動が紹介されました。

お金がなく、140円のパンを1個万引きして、裁判で罰金刑を受けたという事例を通して、そのような人であっても受け入れるのが、更生保護施設の役割であるという話は、参加した中学生たちの琴線に触れたのではないかと思います。



結びに、平田和雄高岡市保護司会会長の挨拶で閉会しました。

(事務局長 作井 宗人)



高岡市立高陵中学校 小中合同挨拶運動



高岡市立高陵中学校 吹奏楽部

高岡市更生保護協力雇用主会総会・研修会

令和5年度、高岡市更生保護協力雇用主会総会が、8月30日高岡市ふくおか総合文化センターで開催されました。

林光彦常務理事の司会で、八田正人会長の挨拶があり、次に富山保護観察所中澤秀高所長から祝辞をいただき、来賓として、高岡公共職業安定所浦嶋竜也所長、高岡社会福祉協議会尾崎憲子会長、高岡市福祉保健部戸田龍太郎部長、高岡市更生保護女性会大場洋子副会長が出席されました。続いて、八田議長の議事進行で、令和4年度の事業報告、収支決算報告、監査報告があり、可決されました。

次に令和5年度の役員改選案および事業計画案、収支予算案が原案通り可決され、山岡弘之副会長の閉会の挨拶で総会は終了しました。

研修会では、富山保護観察所中澤秀高所長と、富山県就労支援事業者機構山友子就労支援員より「更生保護就労支援事業の開始について」と題して講演をいただきました。犯罪情勢と再犯防止の重要性を聞き、今般の更生保護就労支援事業の開始を受けて、更生保護就労支援員が、支援対象者や協力雇用主支援の一翼を担うために、保護司も連携していかなければいけないと感じました。

最後に、平田和雄会長の挨拶で総会および研修会は終了しました。
(協力組織部会 滋野 雅治)

中部地方更生保護女性の集い参加報告

令和5年9月20日、富山国際会議場にて、中部6県の更生保護女性会員約200人が集まり、中部更生保護女性の集いが開催されました。

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、中止された県もありましたが、富山県開催は12年ぶりとなりました。開会式では、藤井裕久富山市長の歓迎の言葉、千葉景子日本更生保護女性連盟理事長、新田八朗県知事など、来賓方のお祝いの言葉が披露されました。

新田県知事からは、刑務所内で作られたカッコいいとは到底言えない学習机を少年時代、父から買ってもらったことが今でも心に残っていると言葉を詰まらせて述べられたことが印象に残っています。

次に、長年にわたって更生保護活動に尽力してきた会員の顕彰があり、中部地方更生保護委員会委員長感謝状47名(高岡は1名)、中部地方更生保護女性連盟会長表彰49名(高岡は1名)富山保護観察所長感謝状33名(高岡は6名)が、それぞれ受彰しました。

「今こそポジティブマインド!!」と題した吉友嘉久子氏の記念講演がありました。幸せは自分の手で掴む、出掛ける、喋る、食べる、何事も前向きに！スマイルパワーで日々過ごすことが大事だとのお話で、私も、なるほど考え方ひとつで明るく輝いた人生が送れる

と思いをしました。今回、私は、中部地方更生保護女性連盟会長表彰を受彰しました。更生保護女性会活動は、未知の世界でしたが、多くの人との出会いがあり、会員同志の協力のもと、活動してまいりました。これを機に心新たな気持ちで微力ながら、更生保護女性会活動に取り組んでいきたいと思えます。
(更生保護女性会 北村 和子)



○作文・ポスターコンテスト

第73回『社会を明るくする運動』の取り組みの一つとして、今年も高岡市内小・中・特別支援学校・義務教育学校の児童・生徒に作文・ポスターコンテストの募集を呼びかけました。

作文の部においては、小学校は5校から116点、中学校は7校から183点の作品が集まりました。その中で、最優秀賞を4点、優秀賞を17点、選出しました。

小学生の作文では、日常の家庭生活や、学校生活で体験したことなどをと、挨拶の効果や大切さ、いじめや差別のない学校づくり、周りの人々に親切にすることや、勇気をもって対応することなどが素直に小学生らしく表



どの作品も心を込めて描いてあり、一つひとつ慎重に選びました。

現されていきました。また、中学生の作文では、社明運動の趣旨を踏まえながら、犯罪や非行防止と再犯防止、地域社会との交流などに関して、自分の感じたことや考えたことを読み手の心に響くように工夫されていました。今年、高岡市で開催した「富山県更生保護フェアin高岡」で学んだことを題材にしたものもありました。ポスターの部の応募数は、小学校は5校から159点、中学校は5校から35点でした。その中で、最優秀賞を2点、金賞を11点選出しました。入賞作品は、どの作品も心を込めて丁寧に描いてあり、創造性、獨創性に富んでいました。それぞれの作品には社明運動に関する題名が付けられ、主題が明確に伝わるように工夫されていました。作文・ポスターの入賞作品集は、12月に刊行されます。ぜひ手に取ってご覧いただきたいと思えます。
(地域活動部会 正平 務)

東部支部 舘 勇将

〽 退任の挨拶 〽

保護司を委嘱され今年12月をもって定年を迎えることになりました。今まで多くの皆様方にご指導、ご協力をいただきましたことに感謝とお礼を申しあげます。

私が保護司になったきっかけは22年前に、私の住む二塚地区が南部支部から東部支部へ変更されたことに伴い二塚地区連合自治会より推薦を受けたことに始まり、今日まで活動をさせていただきました。

二塚地区は犯罪が少ないこともあり、担当する事件は多くありませんでしたが、一つひとつ責任をもって担当させていいただきました。

一番印象に残っているのは、岐阜刑務所へ往訪する機会をいただき、仮釈放者との面接の時でありました。私にとって初めての面接であり一夜漬けのマニュアルを思い浮かべながら対応したことを思い出します。今でもあの時もう少し色々な話を話し合えたらよかったと思っています。

保護司の活動で、貴重な経験をたくさんさせていただきました。また、多くの人と出会ったことで、それぞれの考え方や、対応方法などについて学ぶことができたことに心から感謝申し上げます。

最後に、保護司会の皆様の益々の活躍とご健康をご期待申しあげ、退任の挨拶とさせていただきます。

西部支部 本保 由喜美

7月26日、西条公民館においてミニ集会を開催し、高岡西部中学校区の学校関係や自治会関係、地元交番の方々に参加いただきました。

保護司活動の現状についての説明後、「薬物乱用防止について」と題して、高岡市保護司会宇波研修部長からの講話がありました。一人の薬物依存が気づかないうちに、家庭崩壊に陥ってしまうこと、また依存症の回復は専門家に頼らなければできないことなど、わかりやすく話していただきました。

会の後半では、地元交番より未成年のタバコが大麻等薬物への入口になるケースが多く、地域での見守りが重要であることが伝えられました。その際、直接注意するのが難しい場合には交番へ連絡してほしいと話されました。



また、保護司の活動事例として、八田保護司から協力雇用主会についての説明があり、更女会からは養得園での活動の様子が紹介されました。参加者の方からは、日頃聴く機会のない話に接し、とても参考になったとのご意見をいただきました。

今回のようなミニ集会が保護司の活動への理解を深めることにつながり、また地域ぐるみで犯罪を未然に防止することの大切さについて、改めて確認できた良い機会となっていると思えました。

南部支部 近松 裕子

十数年前、担当したA子は両親と姉に可愛がられ、何不自由なく素直に育った末っ子です。ただ一つの欠点は一般常識の欠落でした。

多感で流行に敏感な彼女は、中学三年生時に、流行り始めたルーズソックスを履いて、ルンルン気分登校しました。当然ながら先生から注意を受けました。



しかしA子は改めることなく、何度も校則違反を繰り返すので、業を煮やした先生から「他の子に影響があるから・・・云々」などと厳しい言葉で叱責されました。

その後、A子是不登校になり、不良交友から罪を犯してしまいました。「言葉」は人間にとって不可欠な伝達手段ですが、無思慮・無配慮に使われると、場合によっては、相手の人生を瞬時に変えてしまうこともあり得ることを実感した事例でした。

保護観察終了から十数年後、突然A子から手紙が届きました。「先生！私今どこにいますか？東京で働いているよ」と。父母の庇護のもとから巣立つ日がくるのかな？と案じていただけに、想定外の羽ばたきに言い表せない驚きと感動があり、深い安堵感を得ました。

期せずして、私の退院日に届いたこの手紙は、回復を後押しする一助となりました。

北部支部 清水 範子

県内に線状降水帯による大雨警報が発令される不安定な梅雨空の7月14日、牧野公民館において、各種団体長22名、保護司12名の出席を得て、高岡児童相談所石動仁所長をお迎えし「児童虐待相談の対応状況」について講演をしていただきました。

相談所は震災孤児への支援を業務として開設されましたが、70年を経た現在では相談内容も養護、保健、障害、非行、育成など多岐にわたります。例えば養護相談の児童虐待については大人の意識の変化もあり内容によつては児童相談所だけでは対応できない場合もあります。

非行相談ではスマホの普及により、目に見える非行より、目に見えない非行が増加しているにもかかわらず対応件数はわずか2%です。また、最近では社会生活能力に不安のある人からの相談が多くなっている。とのことでした。



私たちは行動制限のあるコロナ禍を経験して対面・対話・対感の大切さを再認識しました。これからは顔の表情、声の調子、些細なしぐさ等をきちんと受け止め「来た時よりも軽やかになったかな」と認識出来るような面接をするように心がけたいと思えました。

伏木支部 鹿嶋 茂

伏木支部では 7 月 25 日に、伏木コミュニティセンターで、保護司と更生保護女性会、一般の人を合わせて 35 名で、ミニ集会を開催しました。来賓に高岡市更生保護女性会角田幾子会長に出席をお願いして、ご挨拶をいただきました。

講師は高岡社会福祉協議会尾崎憲子会長にお願いし、テーマは「私たちの地域の活動」と題して講演をいただきました。



尾崎先生の話では、自分の過去の体験から「皆さんも、もっと地域活動に参加して欲しい。楽しいですよ」と参加者を励ましておられました。そして、地域にはいろいろな組織があるが、もっと横の繋がりと連携が必要であることを話されました。

また、13日に発令された大雨警報による緊急避難メールで、実際に避難された角田会長に登壇していただき、避難所においても励ましあって助け合う横の繋がりが大切であることについて、尾崎先生との息の合ったトークが見ものでした。

講演が終わり、質疑応答では熱の入った意見や質問が途切れることなく続きました。

今回のミニ集会では、更生保護女性会伏木支部の皆さんには、大変ご尽力をいただきました。誠にありがとうございました。

戸田支部 深松 慶子

〜 児童虐待から学ぶ 〜

7月11日、戸田地区では、9名の戸田地区更生保護女性会と共に、ミニ集会を開催しました。今回は、虐待について専門的に詳しい高岡児童相談所石動仁所長よりお話をいただき、現状や問題点について和やかな雰囲気の中で研修を深めました。

近年、高岡児童相談所の相談種類は、児童虐待の件数が一番多く、平成12年から約7倍に増えてきています。



具体例としては、夫婦げんか子どもにとつては心理的虐待とみなされ、大人を信じることができなくなる境地にまで追い込まれる事態を知りました。対応としては、夫婦に子どもへの影響を説明し、再発予防の相談をするとともに、子どものカウンセリングも行われます。

また、体罰禁止規定の条例により、児童の主体性を重んじ、「体罰等によらない子育てを広げよう」をスローガンに取り組んでいることを知りました。

児童を見守る相談所があることはありがたいことですが、本日の講話から地域でできる温かい声掛けと、信頼できる大人が周りにいることを示していくことが大切であることを改めて確認することができました。

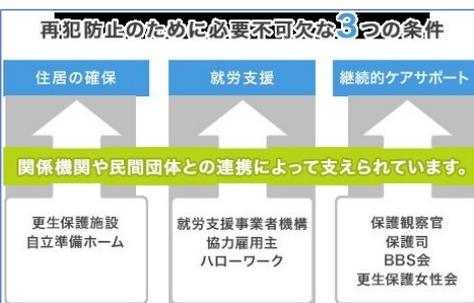
福岡支部 旭 健志

〜 新任保護司挨拶 〜

この度、公私共にお世話になっての方からご推薦をいただき、保護司を委嘱されました。

かつて、中学校教師として多くの生徒と過ごし、幸せな思い出を振り返る一方、消えることのない少年たちの顔が後悔や反省と共によみがえってきます。

非行により鑑別所や少年院などに収容され、社会に背を向けたまま、振り返らせることも、立ち止まらせることもできなかった日々。そんな時、少年たちに対し、献身的に接する保護司の方に出会い、「これまで」ではなく「これから」に根気強く寄り添い、新たな道を示されている姿を忘れることはできません。



「更生保護」の担い手である保護司の役割の難しさと責任の重さを痛感する中で、新たな人生を切り開いて頂けるよう、また、犯罪予防の一助となるよう保護司活動に粉骨碎身の覚悟で邁進して参ります。若輩者ですが、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

保護司の心

最近挨拶をしない、できない大人が多いと感じているのは自分だけでしょうか。

小中学校における「挨拶運動」の推進で、挨拶をする習慣は身に付いているはずですが。挨拶は地域社会のコミュニケーションを円滑にするには大切なことです。

近年、少子高齢化・核家族化が進むと共に、地域のさまざまな行事がなくなり、人と人との繋がりの希薄化が進み、近所付き合いも無くなり挨拶が疎かになりがちに感じます。

犯罪防止という観点からも、出会った人に声をかけ挨拶をする事が重要だと思います。

話は少し変わりますが、現在誰もが知っている「大谷翔平選手」。私はメディアを通じてしか知りませんが、誰からも愛され親しまれる姿に魅了されます。彼の姿の原点の一つが、花巻東高校一年の時に書いた「目標達成シート」にあると思います。

それには野球技術の向上はもとよりメンタル・運・人間性等に触れており各項目の中には「思いやり」「礼儀」「ゴミ拾い」「あいさつ」などが書かれています。掲げた事を今でも実践している姿に感銘を受けます。

今後、彼の益々の活躍を期待し、我々においては誰もが笑顔で挨拶し合える明るい社会づくりを目指していかなくてはと思います。

(西部支部 竹本 俊文)

◇「子ども家庭庁」における児童虐待の相談件数が過去最多

子ども家庭庁のまとめでは、全国の児童相談所が令和4年度に、児童虐待の相談を受け対応した件数が過去最多となりました。前年度比1万1510件増の21万9170件に上り、32年連続で増加しています。

県内の対応件数は、令和元年に次ぐ過去2番目で、前年度比150件増の1044件でした。すべての種別(身体的虐待、心理的虐待、ネグレクト、性的虐待)で増加しています。

保護者看

児童虐待対応件数増加の背景



児童虐待対応件数が増加傾向にあるのは、児童虐待の事件報道や児童相談所虐待対応ダイヤル189(いちはやく)の広報、児童福祉法や児童虐待防止法の改正などにより社会的意識が高まり、通告・相談が増えていることが一つの要因と考えられます。

それに加え、県内では警察や市町村などからの通告・相談件数が全体の79%を占め、関係機関自身の児童虐待に対する感度が高まったことが大きな要因と考えられます。

平成30年に児童虐待の予防、早期発見及び児童の安全確保を目的に、県と県警察、県内全市町村と県警察がそれぞれ「情報共有にかかる協定」を締結しました。さらに、その後の児童虐待の多様化・深刻化を踏まえ、令和3年には県と県警察が同協定を再締結し

ています。

このような対策もあり、警察からの通告・相談は全体の44%を占め、特に夫婦間の喧嘩や家庭内トラブルなどで出動した警察が、現場で面談D.V(子どもの前での暴力や暴言)を認め、心理的虐待として通告するケースが多くなっています。

児童虐待対応の基本は、「子どもの権利擁護」です。児童相談所は対応件数の増減に関係なく、迅速な対応、安全確保、充分な情報収集、正確なアセスメントが求められます。

「子どもの最善の利益」を第一に、児童相談所をはじめ関係機関が一層連携強化を図り、児童虐待の予防から早期発見・対応、家庭環境の調整、自立支援に至るまで、切れ目のない総合的な対応が必要です。

(広報部副部長 中田 保博)

児童虐待は社会全体で解決すべき問題です。

11月1日は児童虐待防止の日です。

児童虐待とは・・・

- 身体的虐待: 殴る、罵る、蹴る、投げ落とす、熱い湯をかける、やけどをさせる、濡らす など
- 性的虐待: 子どもへの性的行為、性的行為を見せる、ポルノグラフィの閲覧させる など
- ネグレクト: 食事に必要な食事を与えない、ひどく不潔にする、自動車事故中に放置する、薬・傷病薬につけても病院に連れて行かない など
- 心理的虐待: 罵詈雑言による辱し、罵倒、さよならの言葉の強要、子どもの目の前で家族に対して暴力をふるう(D.V) など

乳幼児虐待を防止する法律

赤ちゃんを優しく育てるために、子育て支援センターや児童相談所、子育て支援センターなどで相談や支援を受けたい場合は、児童相談所や子育て支援センターへお問い合わせください。

虐待かもと思ったら すぐにお電話をください。

189

児童相談所や市町村の相談窓口にご連絡ください。

33 シヤフルボード大会開催

10月22日、戸出コミュニティセンター体育館で、コロナ禍前のように完全復活という形でシヤフルボード大会を開催しました。

参加者は、富山保護観察所3名、市保護司会23名、市更生保護女性会17名、高岡法科大学生8名、富山国際大学生5名、高岡地区BBS会2名、対象者1名、全体で59名という過去最多の参加者があり、大いに盛り上がりました。

A・B二つのブロックに分かれて、10チームでの総当たり戦を行いました。シャフルボード大会は過去何度か開催しており、またスポーツ&レクリエーション交流会での練習の成果もあり、賑やかで熱い大会になりました。



いい汗をかいた後は、お待ちかねの市更女会の方々が作ってくれた、カレーライスの時間です。温かい食事をみんなで食べ、満足した様子でした。もちろんおかわり自由です。今年度は制限の無い形での開催となりました。来年度は6月に開催予定となっています。今後もスポーツ&レクリエーション交流会など、ご協力をよろしく願います。

(高岡地区BBS会長 萩原 隆幸)

担い手不足の保護司制度 国が検討会ですより良い方向に

保護司制度は、存続の危機に直面しています。定数は全国で5万2500人と定められています。実際の数は減少が著しく、本年1月時点での保護司数は、約4万5000人で、定員割れしています。(7千500人減)

更に8割が60歳以上で、任期は2年です。再任できる上限年齢は原則76歳未満と定められており、10年後には約半数が退任を迎えます。

国は制度の見直しに向けた検討会を設置し、今年5月、保護司や研究者などが参加し初会合を開きました。

検討会では、推薦で選ぶことになっている保護司制度に、公募制を導入するかどうかや、年齢の上限の見直し、ボランティアとしてではなく報酬を支払うかなどを今後議論し、働きがいのある制度を目指し、来年秋を目途に報告書案をまとめる方針です。(広報部)





高岡市保護司会活動スナップ



更生保護フェア in 高岡で受付をする高岡市保護司会の皆さん。(7/8)



メッセージ伝達を終えて皆で社明啓発ティッシュを学生に配る。(7/3)



総理大臣・県知事メッセージ伝達 高岡駅万葉ロード (7/3)



坂下町商店街朝市での広報活動
ホゴちゃん是谁かな～? (7/23)



更生保護フェア in 高岡で演奏する
市立高陵中学校吹奏楽部 (7/8)



更生保護フェア in 高岡で誘導する
保護司。お疲れ様でした。(7/8)



高岡市更生保護協力雇用主会総会で
挨拶する八田正人会長 (8/30)



東部支部ミニ集会で進行する
仙田智治氏、館勇将氏 (7/28)



南部支部ミニ集会で講師の南星中
学校有沢渉生徒指導主事 (7/26)



なるほど

◆ 奈良監獄がホテルに

奈良少年刑務所の前身は、奈良監獄で「明治の五大監獄」(千葉、金沢、奈良、長崎、鹿児島)の一つであり、明治41年に建築家の山下啓次郎氏の設計で建築されました。明治政府が国の威信をかけて取り組んだ監獄の近代化によって、建てられた秀麗なレンガ建築には、明治政府の不平条約解消への悲願と建築技術が集結されています。

元収容棟は、ハピランド・システムと呼ばれた建築が取り入れられ、看守が立つ監視所を全体の中心に据え、複数の収容棟が放射状に伸びています。今日に至る日本の「近代監獄」を象徴する収容棟です。

ちなみに、北海道の旧網走刑務所も同じ形式で建てられています。

監獄の国際標準化を目指した赤レンガ造りの建物は、歴史的価値が高く、意匠的にも優れた近代建築として、平成29年、国の重要文化財に指定されました。

しかし、耐震性の問題から閉鎖が決まり、建物を補強修繕し、令和8年春までの開業を目指して、ホテルや監獄史料館として運営する予定だそうです。県外施設視察研修で訪ねてみてはどうだろうか。

(広報部)

令和5年度 秋の叙勲 表彰者紹介

法務大臣表彰

鶴谷 茂樹 (伏木支部)
山口 豊 (伏木支部)

全国保護司連盟理事長表彰

須賀 泉美 (東部支部)

中部地方更生保護委員会委員長表彰

田子 実 (東部支部)
後谷 仲子 (北部支部)
深松 慶子 (戸田支部)

中部地方保護司連盟会長表彰

吉田 弘美 (東部支部)
楠 隆司 (南部支部)
嶋川 美和子 (南部支部)
山本 清美 (福岡支部)

富山保護観察所長表彰

山崎 肇 (東部支部)
滋野 雅治 (西部支部)
中田 保博 (北部支部)

富山保護観察所長感謝状(勤続10年)

田子 実 (東部支部)
原 嘉伸 (東部支部)
酒井 立志 (北部支部)
林 光彦 (戸田支部)

富山保護観察所長感謝状(家族功労)

須賀 正紀 (東部支部)
後谷 清文 (北部支部)

富山県保護司会連合会会長表彰

松川 和恵 (東部支部)
広地 功信 (西部支部)
大川 英一 (南部支部)

厚生労働省医薬局長感謝状

吉井 教潤 (北部支部)

高岡市功労者表彰(保護司)

鶴谷 茂樹 (伏木支部)
山口 豊 (伏木支部)

中部地方更生保護委員会委員長感謝状

山岡石材工業(株) 代表取締役
山岡 弘之様

日本BBS連盟会長表彰

萩原 隆幸様

保護司の動静

退任保護司

小島 清美様 (北部支部)

推薦書籍の紹介

発達障害の人が見ている世界
岩瀬利郎 著
ADHD、ASDの「見ている世界」を紹介する一冊。
※ ADHD：注意欠如多動症
ASD：自閉スペクトラム症

これまで1万人以上の発達障害の人と向き合ってきた、精神科医の岩瀬利郎医学博士の著書。
発達障害の特性を持つ人で、特にADHDとASDの人が「見ている世界」を紹介する一冊。

谷村新司さんを偲ぶ

法務省が実施する『社会を明るくする運動』で、フラッグアーティストを務める歌手の谷村新司さん(74)が、10月8日に往生されました。
谷村さんは、第59回『社会を明るくする運動』(平成21)で広報ポスターに出演され、自身が以前から関わっている社会貢献活動と重なる部分があるとして、本運動の趣旨に深く共感されました。

君の声を聴かせて。
谷村新司
犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ
社会を明るくする運動

その後、この社明運動をライフワークとして応援したいとの願いで、第60回『社会を明るくする明運動』(平成22)から、フラッグアーティストとして、社明運動応援ソング「咲きほこる花のように」など、歌を通してでも更生保護活動に貢献されました。



また、北陸新幹線キャンペーン曲「北陸ロマン」(平成27)は、谷村氏と女優の仲間由紀恵さんの特別デュエット版として発表されました。
謹んで哀悼の意を表します。(M)

スポーツ&レクリエーション交流

ふれあい福祉センター体育館
毎月1回(開催日は随時案内)
シャフルボードには、対象者担当の保護司は、一緒に参加下さい。
●問い合わせ サポートセンター
TEL 0766・53・5101

主催 高岡市保護司会
高岡市更生保護女性会
高岡地区BBS会

危険ドラッグ
あなたの人生を壊します。
買わない 使わない
かかわらない
高岡市保護司会

編集後記

滑川市では犯罪被害者やその家族の権利と利益の保護を図り、犯罪被害者を支えるまちづくりを推進するため、犯罪被害者支援の基本となる事項を定める「(仮称)滑川市犯罪被害者等支援条例」の制定に向けて準備を進めています。市はこの条例の素案を公表し、市民からの意見を伺う意見募集(パブリックコメント)を実施します。
県内の市では初めての取り組みで、県外市町村でも犯罪被害者に寄り添った条例を推進する方向に動いているようです。ここに「たかおか更生保護だより」45号を発刊します。(広報部)